木綿栽培の普及と染織技術の発達

木綿栽培は、十五世紀末期の頃から東海地方や近畿地方を中心に始まり、やがて十六世紀後期に本格化しました。三重県下では、松阪市や津市・鈴鹿市一帯の伊勢平野で栽培されました。

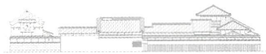
木綿の商品化には、木綿栽培技術とともに高度な染織技術が必要になります。松阪市東部には、古来、伊勢神宮に奉納する麻布を織る神麻続機殿神社、絹布を織る神服織機殿神社があり、地元の人々が織りの技術を伝えてきました。また南部の法田村には、十七世紀初期には高度な染め技術を持った紺屋集団が存在しました。

このような歴史的背景もあって、松阪商人は藍染めを基調とした縞模様のブランド商品「松阪縞」を生産し、江戸で売り出しました。

茶の湯と「遊び」の空間ー豪商のたたずまい

旧長谷川治郎兵衛家

国指定重要文化財（建造物）「旧長谷川家住宅」
三重県指定史跡及び名勝「長谷川氏旧宅」



旧長谷川治郎兵衛家

〒515-0082 三重県松阪市魚町1653番地　0598-21-8600

【開館時間】
9:00～17:00（16:30までにご入館ください）
休館日／水曜日（祝日の場合は翌日）・年末年始

【入館料】
一般 400円／6歳以上18歳以下 200円
※20名以上の場合は団体割引あり

【アクセス】
JR・近鉄松阪駅より徒歩 約10分
松阪駅より三交バス「松阪中央病院行き」に乗車
～本町で下車し徒歩 約2分
伊勢自動車道松阪インターから車で 約10分
車は松阪市駐車場へ停めてください／駐車場より徒歩 約8分

【お問い合わせ】
NPO法人 松阪歴史文化舎
http://matsusaka-rekibun.com/

Google Map

HP

松阪商人の江戸店

十七世紀前期から、松阪商人は盛んに江戸や京都・大阪に出店を構えました。彼らは、伊勢商人と呼ばれ、大阪商人・近江商人とともに日本三大商人の一つとして名をはせました。

松阪商人の多くは江戸の日本橋周辺に出店を構え、伊勢地方産の様々な商品を商いましたが、その中でも松阪木綿を商う店は大伝馬町に集住しました。十八世紀初期の大伝馬町には、木綿問屋が七十軒余りもありましたが、松阪出身の長谷川・小津・長井、津市の田中・川喜田等が軒を連ねていました。

また、近隣の駿河町には三井、本町には伊豆蔵という松阪出身の大手の呉服商が店を構え、ここでも松阪木綿を販売していました。

【伊勢商人の店が立ち並ぶ歌川広重作の錦絵「東都大伝馬街繁栄之図」】

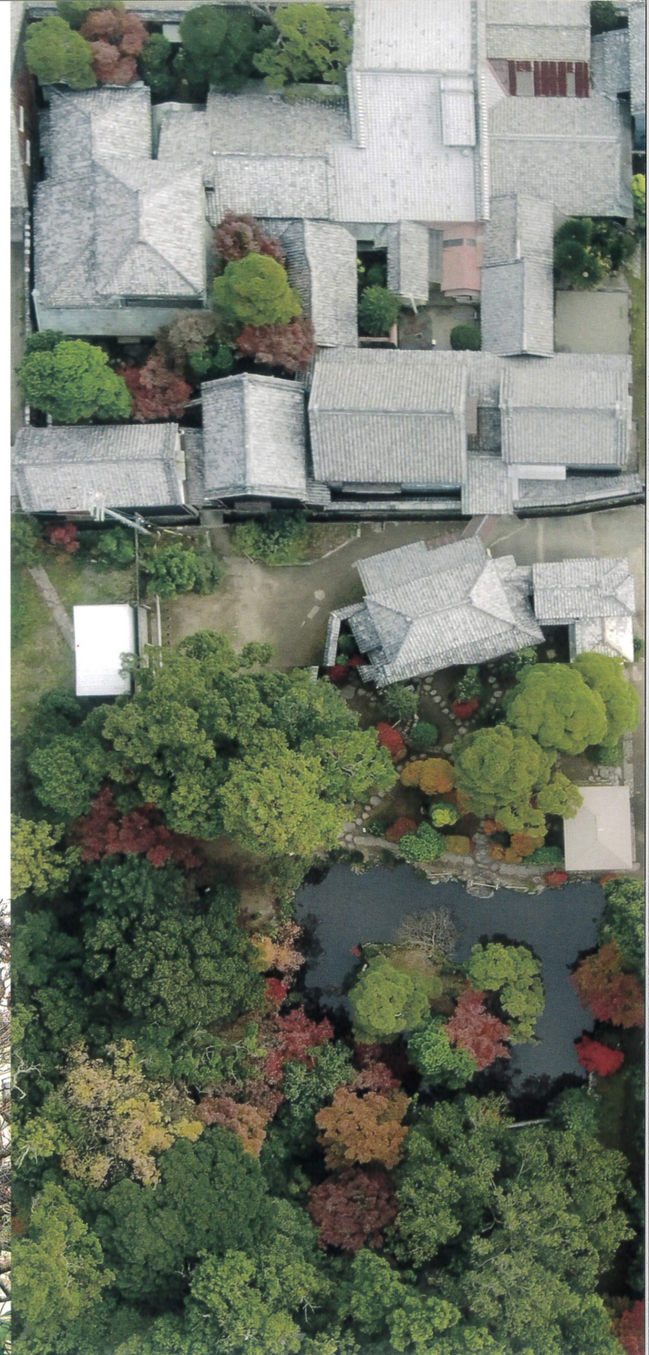
江戸店の経営と主人の趣味・教養

長谷川家は、一六七五年に江戸の大伝馬町で創業しました。その後江戸で木綿問屋を五店舗、平坂（愛知県西尾市）で木綿仕入店を経営し、店には、百二十人余りの従業員が働いていました。

主人は、出店の経営を従業員に任せて、家族とともに松阪に住みましたが、常に人事権を持ち、手紙でもって経営方針を指示しました。松阪周辺で優れた従業員を雇い入れ、江戸店に送り込みました。

伊勢商人の目玉商品であった木綿は、十八世紀後期には松阪から五十五万反余りを江戸へ出荷しましたが、長谷川家の江戸店は四万反余りを商いました。

松阪の主人は、紀州藩役所の仕事をしながら、余暇には茶道や和歌・俳句などの文芸活動を嗜みました。茶道の千宗室や国学者の本居宣長らに学びながら彼らのスポンサーとして金銭的な支援を行いました。



現代まで受け継がれた歴史的文化遺産

江戸で稼いだお金は主人の許に送られたため、松阪の本宅は徐々に敷地を広げ増築・新築を繰り返しながら大きな屋敷になりました。三十以上の部屋がある主屋と五棟の蔵は、十七世紀後期から二十世紀初期に順次建てられたもので、国の重要文化財に指定されています。現存する古い商家としては、国内でベストテンに入るものです。蔵の裏手には、十九世紀末期に築造された池を中心とする日本庭園と座敷・茶室などがあり、四季折々の風情を楽しむことができます。

長谷川家では、創業以来の土地・建物・資料とともに、近年まで昔ながらの生活習慣や年中行事が守り継がれてきました。これは全国的にも非常に珍しく生きた文化財として高く評価されています。

旧長谷川治郎兵衛家では呈茶をしています（500円／10:00〜15:45）